

易行品

【易行品 第九】

○總說

拳難請易

諸久墮の三難

○問ひて曰はく、是の阿惟越致の菩薩の初事は先に説くがごとし。阿惟越致地に至るには、諸の難行を行じ、
久しくして乃ち得べし。
或いは声聞・辟支仏地に墮す。若し爾らば是大衰患なり。
『助道法』の中に説くがごとし。

若し声聞地、及び

是を菩薩の死と名づく。

若し地獄に墮するも、

若し二乗地に墮すれば、

地獄の中に墮するも、

若し二乗地に墮すれば、

仏自ら經の中に於て、

人の寿を貪る者、

菩薩も亦是くのごとし。

辟支仏地に於ては、

辟支仏地に墮するは

則ち一切の利を失す。

是くのごとき畏れを生ぜず。

則ち大怖畏と為す。

畢竟じて仏に至ることを得。

畢竟じて仏道を遮す。

是くのごとき事を解説したまふ。

首を斬らむとすれば則ち大きに畏るるがごとく、

若し声聞地、及び

大怖畏を生ずべしと。

是の故に、若し諸仏の所説に、易行道にして疾く阿惟越致地に至ることを得る方便有らば、願はくは為に之を説きたまへと。

○答へて曰はく、汝が所説のごときは、是憚弱怯劣にして大心有ること無し。是丈夫志幹の言に非ず。何を以ての故に。若し人願を發して阿耨多羅三藐三菩提を求めむと欲して、未だ阿惟越致を得ずは、其の中間に於て身命を惜しまず、昼夜精進して頭燃を救ふがごとくすべし。

呵問

『助道』の中に説くがごとし。

菩薩末だ阿惟越致地に

常に勤精進して、

重担を荷負するがごとくすべし。

常に勤精進して、

聲聞乗・辟支仏乗を

但已が利を成せむが為にするも、

何に況や菩薩の

此の二乗の人よりも、

至ることを得ずは、
猶頭燃を救ひ、

菩提を求むる為の故に、

懈怠の心を生ぜざるべし。

求むる者のごときは、

常に勤精進すべし。

自ら度し、亦彼を度せむとするに於てをや。

億倍して精進すべしと。

大乗を行ずる者には、仏是くのごとく説きたまへり。願を發して仏道を求むるは三千大千世界を挙ぐるよりも重しと。汝、「阿惟越致地は是の法甚だ難し。久しくして乃ち得べし。若し易行道にして疾く阿惟越致地に至ることを得る有りや」と言ふは、是乃ち怯弱下劣の言なり。是大人志幹の説に非ず。

許説

難易二道・乗船譬喻
信方便易行

汝若し必ず此の方便を聞かむと欲せば、今當に之を説くべし。
仏法に無量の門有り。世間の道に難有り易有り。陸道の歩行は則ち苦しく、水道の乗船は則ち樂しきがごとし。菩薩の道も亦是くのごとし。或いは勤行精進のもの有り、或いは信方便易行を以て疾く阿惟越致に至る者有り。偈に説くがごとし。

○十方十仏章

東方善徳仏、
西無量明仏、
東南無憂徳、
西北華徳仏、
南栴檀徳仏、
北方相徳仏、
西南宝施仏、
東北三行仏、

下方明徳仏、

上方広衆徳、

十仏称名不退
十仏称名成仏

是くのごとき諸の世尊、

今現に十方に在す。

若し人疾く、

恭敬心を以て、

不退転地に至らむと欲せば、
執持して名号を称すべしと。

若し菩薩此の身に於て阿惟越致地に至ることを得て、阿耨多羅三藐三菩提を成就せむと欲せば、応當に是の十方諸仏を念じ、其の名号を称すべし。

『宝月童子所問經』の阿惟越致品の中に説きたまふがごとし。

仏、宝月に告げたまはく、東方此を去ること無量無邊不可思議恒河沙等の仏土を過ぎて世界有り。無憂と名づく。其の地平坦にして七宝をもて合成し、紫磨金縷をもて其の界に交絡せり。宝樹羅列して、以て莊嚴と為す。地獄・畜生・餓鬼・阿修羅道及び諸の難処有ること無し。清淨にして穢れ無く、沙礫・瓦石・山陵・堆阜・深坑・幽壑有ること無し。天より常に華を雨らして、以て其の地に布けり。時に世に仏有す。号して善徳如來・應供・正遍知・明行足・善逝・世間解・無上士・調御丈夫・天人師・仏・世尊と曰ふ。大菩薩衆恭敬し囲繞す。身相の光色大金山を燃やすがごとく、大珍宝聚のごとし。諸の大衆の為に広く正法を説きたまふ。初・中・後善く辞有り義有り。所説雜はらず。具足し、清淨にして、如実にして失せず。何をか失せざと謂ふ。地・水・火・風を失せず、欲界・色界・無色界を失せず、色・受・想・行・識を失せざるなり。

宝月、是の仏成道より已來六十億劫を過ぎたまへり。又其の仏國は昼夜異なること無し。但此の間の閻浮提の日月歳数を以て彼の劫寿を説く。其の仏の光明常に世界を照らし

【行卷】
（弥陀の）名号を称すること
『宝月童子所問經』の「阿惟越致品」のなかに説くが如しと。

若し人疾く不退転地に至らんと欲う者は、恭敬心を以て執持して名号を称すべし。
若し菩薩、この身において阿惟越致地に至ることを得、阿耨多羅三藐三菩提を成らんと欲はば、當にこの十方諸仏を念ずべし。

善徳本願力

十仏聞名不退

たまふ。一の説法に於て、無量無辺千万億阿僧祇の衆生をして無生法忍に任せしめ、此の人数に倍して初忍・第二・第三忍に住することを得しめたまふ。

宝月、其の仏の本願力の故に、若し他方の衆生有りて、先仏の所に於て諸の善根を種ゑむに、是の仏但光明を以て身に触れたまふに、即ち無生法忍を得。宝月、若し善男子・善女人ありて是の仏の名を聞きて能く信受する者は、即ち阿耨多羅三藐三菩提を退せらず。

余の九仏の事皆亦是くのことし。

今當に諸仏の名号及び国土の名号を解説すべし。

善徳といふは、其の徳淳善にして但安樂のみ有り。諸天・龍神の福德の、衆生を惑惱するがごときには非ず。

栴檀徳といふは、南方此を去ること無量無辺恒河沙等の仏土にして世界有り、歡喜と名づく。仏を栴檀徳と号す。今現に在して法を説きたまふ。譬へば栴檀の香ばしくして清涼なるがごとく、彼の仏の名稱遠く聞ゆること、香の流布するがごとし。衆生の三毒の火熱を滅除して清涼なることを得しむ。

無量明仏といふは、西方此を去ること無量無辺恒河沙等の仏土にして世界有り、善と名づく。仏を無量明と号す。今現に在して法を説きたまふ。其の仏の身光及び智慧明焰にして無量無辺なり。

相徳仏といふは、北方此を去ること無量無辺恒河沙等の仏土にして世界有り、不可動と名づく。仏を相徳と名づく。今現に在して法を説きたまふ。其の仏の福德高顯なること、猶幢相のごとし。

無憂徳といふは、東南方此を去ること無量無辺恒河沙等の仏土にして世界有り、月明と名づく。仏を無憂徳と号す。今現に在して法を説きたまふ。其の仏の神徳諸の天・人をして憂愁有ること無からしむ。

宝施仏といふは、西南方此を去ること無量無辺恒河沙等の仏土にして世界有り、衆相と名づく。仏を宝施と号す。今現に在して法を説きたまふ。其の仏諸の無漏の根・力・覚・道等の宝を以て常に衆生に施す。

光明無量無辺

華徳仏といふは、西北方此を去ること無量無辺恒河沙等の仏土にして世界有り、衆音と名づく。仏を華徳と号す。今現に在して法を説きたまふ。其の仏の色身、猶妙華のごとく、其の徳無量なり。

三乗行仏といふは、東北方此を去ること無量無辺恒河沙等の仏土にして世界有り、安穩と名づく。仏を三乗行と号す。今現に在して法を説きたまふ。其の仏常に声聞の行、辟支仏の行、諸の菩薩の行を説きたまふ。有る人言はく、上・中・下の精進を説くが故に、号して三乗行と為すと。

明徳仏といふは、下方此を去ること無量無辺恒河沙等の仏土にして世界有り、広大と名づく。仏を明徳と号す。今現に在して法を説きたまふ。明とは身明・智慧明・宝樹光明に名づく。是の三種の明常に世間を照らす。

広衆徳といふは、上方此を去ること無量無辺恒河沙等の仏土にして世界有り、衆月と名づく。仏を広衆徳と号す。今現に在して法を説きたまふ。其の仏の弟子福德広大なるが故に、広衆徳と号す。

今是の十方の仏善徳を初めと為し、広衆徳を後と為す。若し人一心に其の名号を称すれば、即ち阿耨多羅三藐三菩提を退せざることを得。偈に説くがごとし。

若し人有りて是の諸の
即ち無量の徳を得。
我是の諸仏を礼したてまつる。
其名を称すること有れば、
即ち不退転を得。

仏の名を説くを聞くことを得れば、
宝月の為に説きたまふがごとし。
今現に十方に在す。

● 東方に無憂界あり、
色相金山のごとし。
若し人名を聞けば、
我今合掌し礼したてまつる。
● 南方に歡喜界あり、
仏を栴檀徳と号す。

光明無量

聞名不退

光明無量

聞名不退

面の淨きこと満月のごとし。
能く諸の衆生の

名を聞くもの不退を得。

光明量り有ること無し。
三毒の熱惱を滅したまふ。

是の故に稽首し礼したてまつる。

●西方に善世界あり、

身光・智慧明らかにして、

其れ名を聞くこと有れば、

我今稽首し礼したてまつる。

仏を無量明と号す。

照らす所辺際無し。

即ち不退転を得。

願はくは生死の際を尽したまへ。

●北方に無動界あり、

身に衆の相好を具し、

魔怨の衆を摧破し、

名を聞けば不退を得。

●東南の月明界に、

光明日月に喻へ、

常に衆の為に法を説き、

十方の仏称讚したまふ。

●西南に衆相界あり、

常に諸の法寶を以て、

諸天頭面をもて礼して、

我今五体を以て、

常に七覺の華を以て、

白毫相月のごとし。

仏を号して相徳と為す。

以て自ら莊嚴し、
善く諸の人天を化したまふ。

是の故に稽首し礼したてまつる。

仏有して無憂と号す。

遇ふ者煩惱を滅す。

諸の内外の苦を除きたまふ。

是の故に稽首し礼したてまつる。

仏を号して宝施と為す。

広く一切に施したまふ。

宝冠足下に在り。

宝施尊を帰命したてまつる。

仏を号して華徳と為す。

世界に衆の宝樹ありて、
常に七覺の華を以て、
白毫相月のごとし。

光明無量

- 東北の安穏界、諸宝をもて合成する所なり。
- 仏を三乘行と号す。

智慧の光無量にして、衆生に憂惱無し。

- 上方の衆界界、大徳の声聞衆、

諸聖の中の師子なり。

- 諸魔の怖畏する所なり。

● 下方に廣世界あり、身相妙にして、

常に智慧の日を以て、宝土甚だ広大なり。

諸宝をもて莊嚴する所なり。能く無明の闇を破したまへば、是の故に稽首し礼したてまつる。衆宝をもて莊嚴する所なり。

菩薩量り有ること無し。

号して廣衆徳と曰ふ。

是の故に稽首し礼したてまつる。

仏を号して明徳と為す。

閻浮檀金山に超絶す。

諸の善根の華を開きたまふ。

我遙かに稽首し礼したてまつる。

【法事讚】

上海徳初際如來より

乃ち今時の釈迦に至る諸仏、皆弘誓に乗じて

悲智双行し、含情を捨てずして三輪普く化したまふ。

：慈悲方便をもて視

教宣しきに隨ひ、歎め

で弥陀を念ぜしめ、淨

土に帰せしめたまふ。

【行巻】

是の諸の現在の仏、皆彼に従ひて願を發せり。

仏有して海徳と号す。

皆彼に従ひて願を發せり。

光明照らして極まり無し。

名を聞けば定めて仏に作る。

十力を具足し成じたまふ。

稽首し礼したてまつると。

是の故に入天の中の最尊を

『寿命量り有ること無し。光明照らして極まり無し。国土甚だ清淨なり。名を聞きて定めて仏に作らん。』

○百七仏章（弥陀章）

○問うて曰く、

但だ是の十仏の名号を聞いて、執持して心に在けば、便ち阿耨多羅三藐三菩提を退せざることを得るか。更に余仏・余菩薩の名有つて、阿惟越致に至ることを得と為すや。

○答へて曰く、

寿命無量・光照無極

海徳勸化

寿命無量・光照無極

国土清浄・聞名不退

寿命無量・光照無極

国土清浄・聞名不退

寿命無量・光照無極

国土清浄・聞名不退

寿命無量・光照無極

国土清浄・聞名不退

無量光明慧あり、
我今身口意をもて、

身は真金山のごとし。
合掌し稽首し礼したてまつる。

金色の妙光明、

物に隨ひて其の色を増す。

若し人命終の時に、
即ち無量の徳を具す。

往生

成就取意文

即時入必定

論主常念

心受諸苦

彼の國の人命終して、

悪地獄に墮せず。

若し人彼の國に生ずれば、

阿修羅に墮せず。

人天の身相同じくして、

諸勝の所帰の処なり。

其彼の國に生ずること有れば、

十方に普く無礙なり。

其の國の諸の衆生は、

亦宿命智を具す。

彼の國土に生ずれば、

彼此の心を生ぜず。

三界の獄を超出して、
声聞衆無量なり。

普く諸の世界に流れて、

是の故に稽首し礼したてまつる。

彼の國に生ずることを得れば、
是の故に我帰命したてまつる。

無量力威徳を念ずれば、
是の故に我常に念じたてまつる。

設ひ諸の苦を受くべきも、
是の故に帰命し礼したてまつる。

終に三趣及与

我今帰命し礼したてまつる。

猶金山の頂のごとし。

是の故に頭面をもて礼したてまつる。

天眼・耳通を具して、

聖中の尊を稽首したてまつる。

神変及び心通、

是の故に帰命し礼したてまつる。

我無く我所無し。

是の故に稽首し礼したてまつる。

目は蓮華葉のごとし。

是の故に稽首し礼したてまつる。

願作仏心
應時現身
帰命本願力

彼の国の諸の衆生、
自然に十善を行ず。
善より淨明を生ずること、
二足の中の第一なり。

若し人仏に作らむと願じて、
時に応じて為に身を現したまふ。
本願力を帰命す。
来て供養し法を聽く。

其の性皆柔和にして、
衆聖の王を稽首したてまつる。
無量無邊数にして、
是の故に我帰命したてまつる。

心に阿弥陀を念ずれば、
是の故に我、彼の仏の
十方の諸の菩薩、
是の故に我稽首したてまつる。

彼の土の諸の菩薩は、
以て自ら身を莊嚴す。
彼の諸の大菩薩、
十方の仏を供養したてまつる。

諸の相好を具足し、
我今帰命し礼したてまつる。
日日三時に、
是の故に稽首し礼したてまつる。

信疑得失
能讀所讀

若し人善根を種えて、
信心清淨なる者は、
十方現在の仏、
彼の仏の功德を歎じたまふ。

疑へば則ち華開けず。
華開けて則ち仏を見たてまつる。
種種の因縁を以て、
我今帰命し礼したてまつる。

其の土甚だ嚴飾にして、
功德甚だ深厚なり。
仏足の千輻輪は、
見る者皆歎喜す。

眉間の白毫の光は、

彼の諸の天宮に殊なり、
是の故に仏足を礼したてまつる。
柔軟にして蓮華の色あり。
頭面をもて仏足を礼したてまつる。
猶清淨なる月のごとし。

面の光色を増益す。

本仏道を求むる時、

諸経の所説のごとし。

彼の仏の言説したまふ所、

美言にして益する所多し。

此の美言の説を以て、

已に度し今猶度したまふ。

人天の中の最尊なり。

七宝の冠足を摩づ。

一切の賢聖衆、

咸く皆共に帰命す。

彼の八道の船に乗じて、
自ら度し亦彼を度したまふ。

諸仏無量劫に、

猶尚尽すこと能はず。

我今亦是くの如く、

是の福の因縁を以て、

廻向句

乗船譬喻

自利利他

論主称讚
願仏常念

頭面をもて仏足を礼したてまつる。

諸の奇妙の事を行じたまふ。

頭面をもて稽首し礼したてまつる。

諸の罪根を破除す。

我今稽首し礼したてまつる。

諸の着染の病を救ひたまふ。

是の故に稽首し礼したてまつる。

諸天頭面をもて礼し、

是の故に我帰命したてまつる。

及び諸の人天衆、

是の故に我も亦礼したてまつる。

能く難度海を度す。

我自在者を礼したてまつる。

其の功德を讃揚せむに、

清淨人を帰命したてまつる。

無量の徳を称讚す。

願はくは仏常に我を念じたまへ。

【行巻】

彼の八道の船に乗じて、能く難度海を度す。

自ら度し亦彼を度せむ。

我自在者を礼したてまつる。

諸仏、無量劫に、其の功德を讃揚せむに、猶尚

尽すこと能はず。清淨人を帰命したてまつる。我

今亦是くの如し。無量の徳を称讚す。

是の福の因縁を以て、

願はくは仏常に我を念じたまへ。

【論註】

魚母、子を念持すれば、ガクをへて壊せざる

が如し。

安樂国は正覺の為に

善く其の國を持せらる。

又亦毘婆戸仏・戸棄仏・毘首婆伏仏・拘楼珊提仏・迦那迦牟尼仏・迦葉仏・釈迦牟尼仏及び未来世の
弥勒仏を念すべし。皆憶念し礼拝すべし。偈を以て称讚せむ。

●毘婆戸世尊、

一切智を成就して、
正しく世間を観じ、
我今五体を以て、

●戸棄仏世尊、

樹の下に在して坐し、
身色比有ること無し。

我今自ら三界の

●毘首婆世尊、

自然に一切の

諸の人天の中に於て、
是の故に我一切

●迦求村大仏は、

三菩提を、

大智慧を成就し、
我今第一無比尊を

●迦那含牟尼、

優曇鉢樹の下にして、
一切法は無量にして、
是の故に我第一

●迦葉仏世尊、
弱拘楼陀樹の

無憂道樹の下にして、
微妙の諸の功德あり。

其の心解脱を得たまふ。
無上尊を帰命したてまつる。
〔分下〕他利道場

菩提を成就したまふ。
然ゆる紫金山のごとし。

無上尊を帰命したてまつる。
婆羅樹の下に坐し、
妙智慧に通達することを得たまふ。

第一にして比有ること無し。
最勝尊を帰命したてまつる。
阿耨多羅三藐

戸利沙樹の下に得たまひて、

永く生死を脱したまふ。

帰命し礼したてまつる。

大聖無上尊、

仏道を成就し得て、

辺有ること無しと通達したまふ。

無上尊を帰命したてまつる。

眼は双蓮華のごとし。

下に於て仏道を成す。

○東方八仏章

三界に畏るる所無し。
我今自ら無極尊を

行歩すること象王のごとし。
帰命し稽首したてまつる。

●観迦牟尼仏、

魔・怨敵を降伏し、

阿輸陀樹の下にして、

面貌満月のごとく、
我今勇猛第一尊を

無上道を成就したまふ。

●當來の弥勒仏、

清淨にして瑕塵無し。

廣大の心を成就し、
功徳甚だ堅牢にして、

稽首し礼したてまつる。

是の故に我自ら
那伽樹の下に坐して、
自然に仏道を得たまはむ。

能く勝るる者有ること莫からむ。
無比妙法王に帰したてまつると。

復徳勝仏・普明仏・勝敵仏・王相仏・相王仏・無量功徳明自在王仏・藥王無礙仏・宝遊行仏・宝華
仏・安住仏・山王仏有す。亦憶念し恭敬し礼拝すべし。偈を以て称讚せむ。

●無勝世界の中に、

仏有して徳勝と号す。

●我今及び法寶・僧寶を

稽首し礼したてまつる。

●隨意喜世界に、

仏有して普明と号す。

我今自ら及び法寶・僧寶を

帰命したてまつる。

●普賢世界の中に、

仏有して勝敵と号す。

我今及び法寶・僧寶を

帰命し礼したてまつる。

●善淨集世界あり、

仏を王幢相と号す。

我今及び法寶・僧寶を

稽首し礼したてまつる。

●離垢集世界の

無量功徳明、
是の故に稽首し礼したてまつる。

●不誑世界の中の

無礙藥王仏、

○三世諸仏章

我今頭面をもて及び

●今集世界の中の仏を

我今頭面をもて及び

●美音界の宝花

我今頭面をもて及び

我今頭面をもて及び

今是の諸の如來、

我恭敬の心を以て、

唯願はくは諸の如來、

身を現じて我が前に在して、

住して東方界に在す。
称揚し帰命し礼したてまつる。

深く加するに慈愍を以てし、
皆目をして見ることを得しめたまへと。

復次に過去・未来・現在の諸仏、全く總じて念じ恭敬し礼拝すべし。偈を以て称讚せむ。

過去世の諸仏、

大智慧力を以て、

彼の時の諸の衆生、

恭敬して称揚す。

衆の魔怨を降伏し、
広く衆生を利す。

心を尽して皆供養し、

是の故に頭面をもて礼したてまつる。

現在十方界の

其の数恒沙に過ぐ。

諸の衆生を慈愍し、

是の故に我恭敬し、

不可計の諸仏、
無量にして邊有ること無し。

常に妙法輪を転じたまへり。

帰命し稽首し礼したてまつる。

未來世の諸仏、
光明量り有ること無し。

身色金山のごとく、
衆相自ら莊嚴す。

法寶・僧寶を礼したてまつる。
宝遊行と号す。

法寶・僧寶を礼したてまつる。

安立山王仏、

法寶・僧寶を礼したてまつる。

○諸大菩薩章

出世して衆生を度し、
是くのごとき諸の世尊、
復諸の大菩薩を憶念すべし。

當に涅槃に入りたまふべし。
我今頭面をもて礼したてまつると。

善意菩薩・善眼菩薩・聞月菩薩・尸毘王菩薩・一切勝菩薩・知大地菩薩・大藥菩薩・鳩舍菩薩・阿離
念弥菩薩・頂生王菩薩・喜見菩薩・鬱多羅菩薩・薩和檀菩薩・長寿王菩薩・羼提菩薩・韋藍菩薩・啖菩
薩・月蓋菩薩・明首菩薩・法首菩薩・成利菩薩・弥勒菩薩なり。復金剛藏菩薩・金剛首菩薩・無垢藏菩
薩・無垢称菩薩・除疑菩薩・無垢德菩薩・網明菩薩・無量明菩薩・大明菩薩・無尽意菩薩・意王菩薩・
無辺意菩薩・日音菩薩・月音菩薩・美音菩薩・美音声菩薩・大音声菩薩・堅精進菩薩・常堅菩薩・堅發
菩薩・莊嚴王菩薩・常悲菩薩・常不輕菩薩・法上菩薩・法意菩薩・法喜菩薩・法首菩薩・法積菩薩・發
精進菩薩・智慧菩薩・淨威德菩薩・那羅延菩薩・善思惟菩薩・法思惟菩薩・跋陀波羅菩薩・法益菩薩・
高德菩薩・師子遊行菩薩・喜根菩薩・上宝月菩薩・不虛德菩薩・龍德菩薩・文殊師利菩薩・妙音菩薩・
雲音菩薩・勝意菩薩・照明菩薩・勇衆菩薩・威儀菩薩・師子意菩薩・上意菩薩・益意菩薩・
增意菩薩・宝明菩薩・慧頂菩薩・樂說頂菩薩・有德菩薩・觀世自在王菩薩・陀羅尼自在王菩薩・大自在
王菩薩・無憂德菩薩・不虛見菩薩・離惡道菩薩・一切勇健菩薩・破闇菩薩・功德宝菩薩・花威德菩薩・
金瓔珞明德菩薩・離諸陰蓋菩薩・心無闇菩薩・一切行淨菩薩・等見菩薩・不等見菩薩・三昧遊戲菩薩・
法自在菩薩・法相菩薩・明莊嚴菩薩・大莊嚴菩薩・寶頂菩薩・寶印手菩薩・常掌手菩薩・常下手菩薩・
常慘菩薩・常喜菩薩・喜王菩薩・得弁才音声菩薩・虛空雷音菩薩・持宝炬菩薩・勇施菩薩・帝網菩薩・
馬光菩薩・空無闇菩薩・寶勝菩薩・天王菩薩・破魔菩薩・電德菩薩・自在菩薩・頂相菩薩・出過菩薩・
師子吼菩薩・雲蔭菩薩・能勝菩薩・山相幢王菩薩・香象菩薩・大香象菩薩・白香象菩薩・常精進菩薩・
不休息菩薩・妙生菩薩・華莊嚴菩薩・觀世音菩薩・得大勢菩薩・水王菩薩・山王菩薩・帝網菩薩・帝網菩薩・
不休息菩薩・破魔菩薩・莊嚴國土菩薩・金髻菩薩・珠髻菩薩、

是くのごとき等の諸の大菩薩有す。皆憶念し恭敬し礼拝して阿惟越致地を求むべし。